

離島振興部会シンポジウム「“しま資源”を活かした離島の活性化」

離島振興部会

Keyword : 離島、地域振興、地域資源、連携、離島振興法

【開催趣旨】

地域活性学会の「離島振興部会」では、設立趣旨にあるように、「離島の内発的な振興活動の活発化」や「離島どうしや離島・本土間の連携推進」等が一層求められる中、離島等の実態を適確に踏まえた調査研究、実践活動、政策提言等を運動体的に行って、実のある活性化に貢献したいと考えている。

そこで、この離島振興部会シンポジウムでは、神津島（東京都神津島村）と利尻島（北海道利尻町）を例に、「“しま資源”を活かした離島の活性化」について、島民および島外協力者による実践活動と実態把握を踏まえた上で、今後の離島振興のあり方を議論する。

【現状報告と議論の論点】

1. 神津島と利尻島を例にした「しま資源」の活用の現状と課題
2. 離島どうしと離島・本土間の連携における「しま資源」の活用
3. 新たな離島振興法における「しま資源」の活用と今後の島の振興

【登壇者】（追加登壇者の可能性有り）

- ・河合健一（神津島郷(シマ)づくり研究会事務局長）
 - ・西谷栄治（利尻町立博物館学芸課長）
 - ・舘 逸志（内閣府大臣官房審議官）
 - ・古賀 学（松蔭大学教授、NPO 法人観光文化研究所理事長、元日本観光協会総合研究所所長）
- <コーディネーター>
- ・今瀬政司（NPO 法人市民活動情報センター代表理事、長岡大学経済経営学部准教授）

【登壇者の報告要旨】

- ◎河合健一（神津島郷(シマ)づくり研究会事務局長）
- 「山ん子海ん子交流推進」
- ・昭和31年、長野市吉田小OB「山ん子」と伊豆七島神津島村神津小OB「海ん子」は、50年前の文通の縁で、平成18年4月、善光寺様での劇的な初対面を果たして交流を再開した。最後の戦前派でもある〇

B達は、早、齢70の古稀の節目を迎えた。この機を踏まえ、更なる未来志向で旧交を温め合うことを目途として、長野善光寺様を参拝、恩師等とともに一同が集う。

◎西谷栄治（利尻町立博物館学芸課長）

「しまの歴史を現在に活かし、島人・島の未来に繋げるために」

- ・かつて鎖国下の日本に密入国し（利尻島に上陸）、日本で最初の英語教師となったアメリカのラナルド・マクドナルドがいた。利尻高等学校の生徒数が減少する中、生徒一人ひとりが未来に向かっていくために、マクドナルド奨学基金支援の会を島人で立ちあげた。一定の英語力を身につけた利尻の生徒を、アメリカのマクドナルドに縁のある地に派遣する事業で、2013年度から始まった。鎖国の扉に自らの意志で立ち向かったマクドナルドにならい、自ら立ち向かう意識づくり・自分づくりを図ることが事業の目的であり、利尻島から世界を見渡していくことを目指している。
- ・明治41年に鳥取から利尻島に渡ってきた麒麟獅子。一度は途絶えた麒麟獅子舞を平成16年に地域の若手たちが復活させた。毎年、麒麟獅子が残っていた小さな集落の小さな神社で奉納舞を続けている。また、鳥取への里帰りのほか、依頼に応じて利尻以外の各地でも舞を行っている。利尻麒麟獅子舞う会を結成し、毎年舞い続け、見に来た人たちと交流し、地域文化の創造を図っている。
- ・これら2つの歴史遺産を現在に活かし、島人・島づくりにどうつなげていくかを報告する。

◎舘 逸志（内閣府大臣官房審議官）

- ・離島は、不利な自然条件から中山間地同様に、或いはそれ以上に高齢化と人口減少の影響を強く受けている。こうした中で淡路島など企業のCSV活動による離島の活性化が注目される。
- ・地域の活性化で重視する事業創造による地域活性化で、特に、企業のCSV活動として鳥取の大山活性

化（ファミリー稲田株式会社）や熱海・湯河原（ぐるなび・NKB）などとともに、淡路島の農業・観光事業創出をパソナが推進していることに着目して、離島における産業創造の一事例として紹介する。

◎古賀 学（松蔭大学教授、NPO 法人観光文化研究所理事長、元日本観光協会総合研究所所長）
・新たな離島振興法を踏まえ、これからの島における観光振興のあり方についての課題を提起する。

◎今瀬政司（NPO 法人市民活動情報センター代表理事、長岡大学経済経営学部准教授）
＜コーディネーター＞

【離島振興部会の概要】

◎設立：2013年9月

◎設立趣旨

社会・経済的課題の多様化が進む中、地域活性化が必要とされる地域の一つとして離島がある。離島では、住民の生活の発展や福祉の増進を図るとともに、豊かな地域コミュニティや文化の継承、自然環境の保全、食糧供給力の維持、海洋資源の利用などを推進することが重要となっている。また、離島振興法が改正され（施行2013.4.1）、沖縄振興特別措置法の改正（同2012.4.1）に続き、奄美群島・小笠原諸島の振興開発特別措置法も改正が予定されるなど、今後、離島に係る新たな政策的対応が期待されている。そうした中、離島が主体性を持って内発的な振興活動を活発化させるとともに、離島どうしや離島・本土間の連携の取組みを推進することが一層求められている。

地域活性学会では「離島振興部会」を創設して、離島振興に関わる様々な団体等のネットワーク化を図り、多くの研究や実践活動を政策的観点等から連携させるとともに、離島等の実態を適確に踏まえた調査研究、実践活動、政策提言等を運動体的に行って、実のある活性化に貢献する。

◎体制（部会に任期を2年（部会発足後）とする役員と事務局を置く。）

〔部会長〕小島愛之助

（元内閣府経済社会総合研究所次長）

〔副部会長・事務局長〕今瀬政司（長岡大学准教授、NPO 法人市民活動情報センター代表理事）

〔副部会長〕緒方 修（NPO 法人アジアクラブ理事長、元沖縄大学教授）

〔副部会長〕河合健一

（神津島郷（シマ）づくり研究会事務局長）

〔副部会長〕古賀 学（松蔭大学教授、元日本観光協会総合研究所所長）

〔副部会長〕館 逸志（本学会副会長、内閣府大臣官房審議官）

（五十音順）

〔部会事務局〕NPO法人市民活動情報センター内

◎離島振興部会ホームページ

http://sicnpo.jp/ritou_bukai/